



あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

# モユク★カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で  
「エゾタヌキ」のことです。

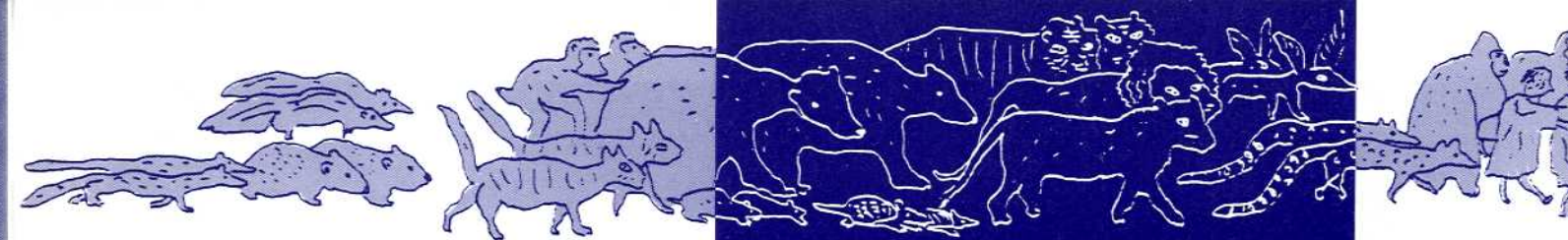


チゴハヤブサ  
*Falco subbuteo*

NO.

33 JULY  
1993





新・どうぶつ解析考

まがしげなし

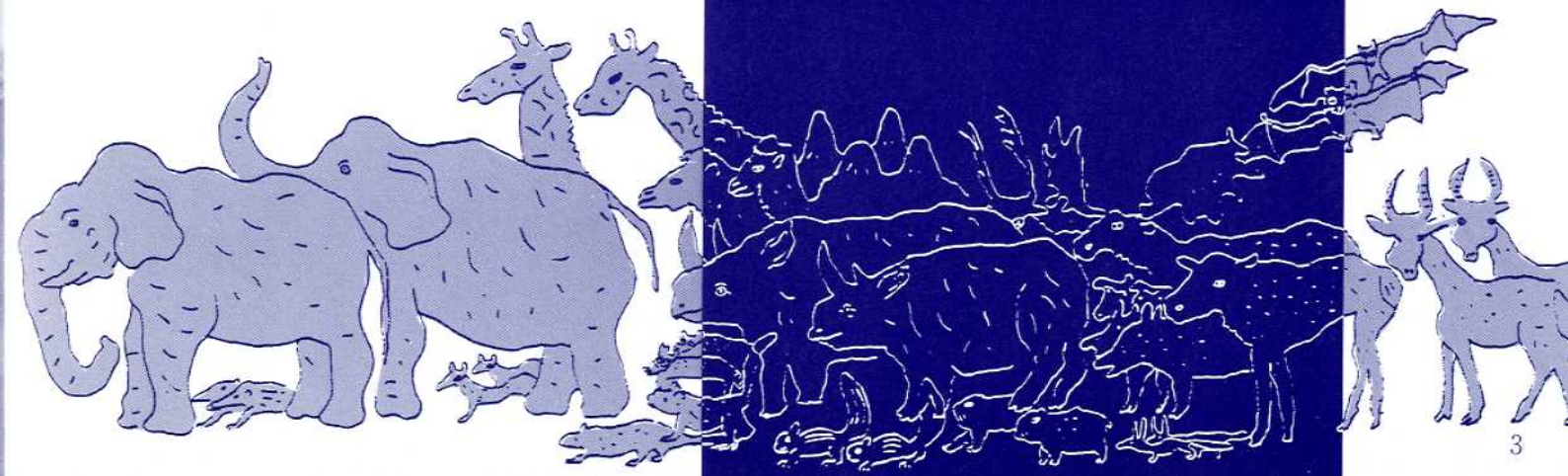
## 鶴の恩返し

この民話は国内各地に古くから残されているもので、「鶴女房」型とされています。大きく分けて二通りの筋があります。一つは「昔むかし、おじいさんとおばあさんがいて、こどもがいません。おじいさんに助けられた鶴が若い娘に姿を変え、養女になり恩返しをする」というもので、もう一つは「貧しい正直な若者が鶴を助け、鶴は美しい娘の姿になって、お嫁さんになり恩返しをする」という話です。いずれも、鶴は機を織っているところを見られ、鶴の世界へ帰って行ってしまいます。渡りをするツルらしい結末となっています。

絵本で見ますと、鶴として描かれているものは、すべてタンチョウのようでした。やはり白い体に黒い袖、頭には赤い頂をつけた、美しい姿に目を引かれ、若いきれいな娘さんを想像することは、そんなに難しいことではないでしょう。

しかし、鳥取や九州などではどうだったのでしょうか。日本画として描かれている鶴で、最も多いのはタンチョウですが、次がマナヅルで、いずれも昔から日本人に親しまれていた証拠でしょう。特に西日本ではタンチョウの飛来よりもマナヅルの方が多かったと思われます。だとすると、西日本の「鶴の恩返し」にはマナヅルの方がふさわしいのかも知れません。

ちなみに現在、九州・出水市に渡ってくるツルは圧倒的にナベヅルが多いのですが、なぜか日本画には希にしか描かれていないそうです。



表紙のこぼれ

チゴハヤブサは頭にかわいいヘルメットをかぶっている。  
スピードに注意。

もくじ

- 2 ほっと ひとPhot -
- 3 新・動物解析考  
昔話の動物たち
- 4.5 シリーズ  
「動物ってなんだろう？」  
第6回「鳥の仲間」その2
- 6.7 カブトムシ
- 8 最近の動物園事情  
Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート  
ー 飼育係しんちゃん ー
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー  
ー カピバラはなぜ大きいのか ー  
クイズ
- 11 飼育日誌・お知らせ



# 第6回「鳥の仲間」

## その2 猛禽類

狩りをする鳥の仲間を猛禽類と呼んでいます。

明るい日中に活動するワシタカの仲間と

夜、暗くなってから活動するフクロウの仲間がいます。



コノハズク

## その2 ワシ・タカ、フクロウ

### 狩りをする鳥



オジロワシ

クマタカ

ハヤブサ

ハイタカ

## ● 猛禽

ワシ、タカ、ハヤブサとフクロウ……これらは一般に猛禽類と呼ばれている。フクロウとワシタカは分類上は近縁関係にないが、獲物を見つけ、獲物をつかみ、獲物を引き裂くことに都合のよいようにからだに適応している点で共通点がある。鋭い眼（視覚）、力強いあし、鋭く曲がった爪、かぎ状の鋭いくちばし、などである。

同じような生活をしている2つの仲間だが、昼型のワシタカ、夜型のフクロウと活動時間をずらすことによって、互いに衝突しないように“すみ分け”している。

## ● ワシやタカの仲間(ワシタカ目)

ワシタカの仲間は南極大陸と一部の太平洋の島々を除いて地球上に広く分布し、森林、草原、湖沼、湿地、砂漠、高原、人里、などあらゆる環境に生息している。エサとなる獲物があるところなら、どこでも生活できるということなのだろう。

大きく分けるとコンドル科、ミサゴ科、ワシタカ科、ヘビクイワシ科、ハヤブサ科の5つのグループに分類され、世界中に80属約290種が見られる。日本では3科29種、うち北海道では3科21種、旭川周辺では2科15種が記録されている。

## ● フクロウの仲間(フクロウ目)

ワシタカ目と同じように、南極大陸と一部の離島を除いて地球上に広く分布し、生息環境もさまざまである。

大きくメンフクロウ科(2属10種)とフクロウ科(22属123種)に分けられる。日本で記録されている2科11種のうち、北海道では1科10種が見られ、8種の繁殖が確認されている。まさに北海道は“フクロウ王国”だ。旭山動物園では現在7種のフクロウを展示しており、4種の繁殖に成功している。

ワシ・タカはどこで記録されているか

日本で記録された種	北海道	旭川周辺	旭山動物園
ミサゴ	○	○	○
オジロワシ	○	○	○
オオワシ	○	○	○
ニホンイヌワシ	○	○	○
カタシロワシ	○	○	○
カワトワシ	○	○	○
クマタカ	○	○	○
カムリワシ	○	○	○
クロハゲワシ	○	○	○
ハチクマ	○	○	○
トビ	○	○	○
サンバ	○	○	○
ケアシノスリ	○	○	○
オオノスリ	○	○	○
ノスリ	○	○	○
ハイロチュウヒ	○	○	○
マダラチュウヒ	○	○	○
チュウヒ	○	○	○
オオタカ	○	○	○
ハイタカ	○	○	○
ツミ	○	○	○
アカハラダカ	○	○	○
シロハヤブサ	○	○	○
ハヤブサ	○	○	○
チゴハヤブサ	○	○	○
チョウゲンボウ	○	○	○
コチョウゲンボウ	○	○	○
ヒメチョウゲンボウ	○	○	○
アカアシチョウゲンボウ	○	○	○

※旭山動物園で繁殖したもの  
○旭山動物園で飼育しているもの  
△旭山動物園で過去に飼育していたもの

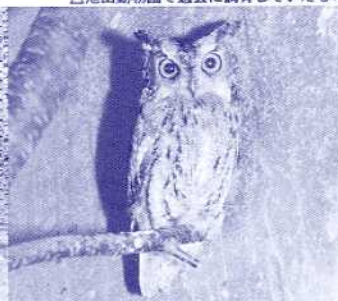
フクロウはどこで記録されているか

日本で記録された種	北海道	旭川周辺	旭山動物園
コノハズク	○	○	○
オオコノハズク	○	○	○
ワシミズク	○	○	○
シマフクロウ	○	○	○
シロフクロウ	○	○	○
アオバズク	○	○	○
キンメフクロウ	○	○	○
フクロウ	○	○	○
トラフズク	○	○	○
コミミズク	○	○	○
ミナミメンフクロウ	○	○	○

※旭山動物園で繁殖したもの  
○旭山動物園で飼育しているもの  
△旭山動物園で過去に飼育していたもの



ワシミズク



オオコノハズク

## オオタカ

*Accipiter gentilis fujiyamae*

もっともタカらしい中型のタカ。北海道、本州の山林で繁殖している。旭川周辺でもよく見かける。旭山動物園では、1987年に日本の動物園で初めて繁殖に成功した。現在8羽を飼育している。

全長 50～56cm  
開翼長 105～130cm  
(メスの方が大きい)

くちばし

嘴

鋭くカギ状に曲がっている。獲物を引き裂いて食べる。

エサ

鳥類が多い。他に野ネズミなどの小動物も食べる。

足指

力強い足指には鋭く曲がったカギ状の爪があり、しっかりと獲物を捕らえる。



目

鋭い目。いわゆる“鷹の目”。視力は抜群で高い上空から小さな野ネズミを発見するほど。

顔

白い眉毛のような眉班と目の後ろに走る黒い線(過眼線)が目立つ。

翼

幅が広く短い。林の中もすばやく自由に飛び回ることができる。

繁殖

山の中の林の樹上に巣をつくる。平均4卵ほど産卵し、孵化日数は38～39日。

尾

長めで、よく目立つ4本の黒い帯がある。矢羽根として珍重される。

くちばし

嘴

鋭くとがっているのは猛禽の証明。獲物は丸飲みし、消化できない骨や羽毛はペリットとして吐き出す。

エサ

野ネズミがほとんど。他にカエルや昆虫など。

声

ゴロスケホッホー

爪

獲物をつかみ殺すために、足指はとても力強い。爪は鋭く内側に湾曲している。

羽毛

音をたてずに飛ぶことができる羽根のつくりになっている。



## エゾフクロウ

*Strix uralensis coreensis*

いちばんフクロウらしいフクロウ。北海道の森に留鳥として広く分布している。

全長 48～52cm  
開翼長 95～102cm

耳

耳は顔の横についている。左右で位置が少しずれているため、聞こえる音に差が生じ、獲物の位置が的確にわかる。

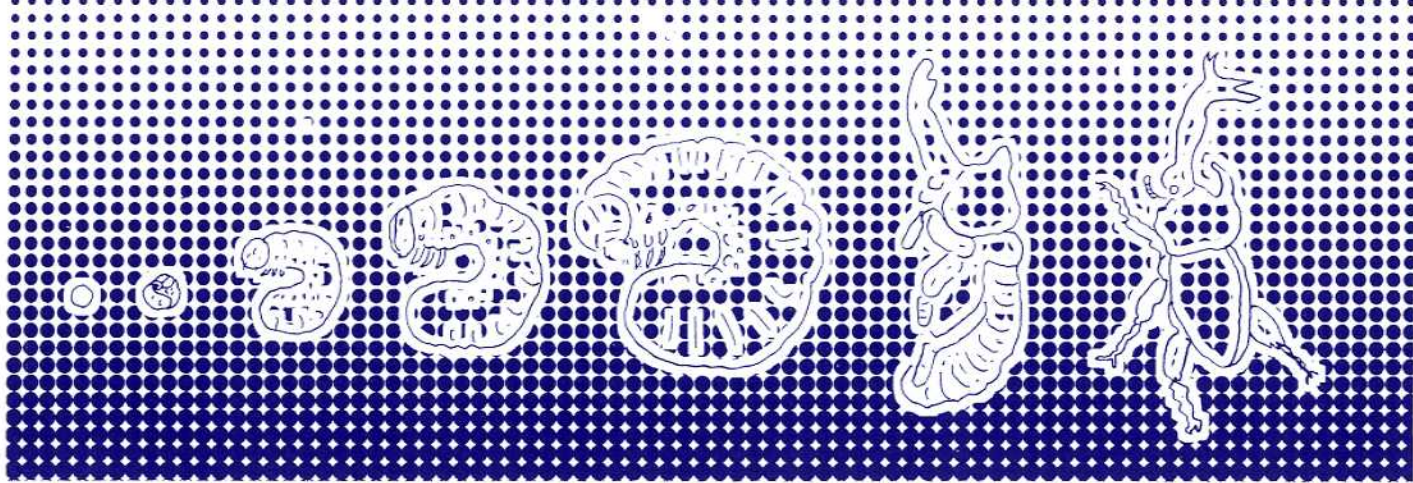
トラフズクやシマフクロウのような羽角(耳のような飾り)はない。

目

目はヒトのように顔の前方についているので、獲物までの距離を測ることができる(立体視)。

夜行性なので、わずかな光でもとらえることができる。また、日中でもよく見え、ハトと同じくらいの視力がある。





# カブトムシ...北海道のカブトムシは...

もともと北海道にはカブトムシは生息していませんでした。ところが14~15年前くらいからメロンなどの果物がカブトムシに喰い荒される被害が道内のあちこちで起こるようになりました。いつ頃どの様にして生息するようになったのかはよく分かっていません。お祭りで売れ残ったものを捨てたものが増えた、本州から持ってきたチップ材などに幼虫が混じっていた、などいろいろな説がありますが、原因はおそらく一つではないでしょう。いずれにせよ今ではカブトムシは道内一円でみることが出来ます。

ただ一つ本州など本来の生息地と違うのは、カブトムシが見られる周辺には必ず人為的な繁殖場があるということです。私が調べたところでは、成虫が見られるのは、ミズナラなどの樹液がでる広葉樹がある雑木林、あるいはメロンなどの果物を栽培している農家が近くにある所で、これだけならば結構あちこちにあります。ところが幼虫が越冬して成長できる場所は限られています。幼虫がみられる場所は豚や牛を飼っている酪農家で、敷わらとして使った木屑と糞の混ざったものを野積みにしてある所、きのこを栽培している農家で広葉樹の木屑を野積みをしている所、畑の堆肥をつくるために、購入した牛糞などを野積みをしている所、おもに広葉樹の落葉を大量に野積みをしている所、などでこれらが1年くらい放置された状態の所で幼虫は成長し成虫になることが出来るようです。幼虫が越冬できる環境は人為的な所しかないのです。ですから旭川にもカブトムシはいますが、上記の環境を満たしているところは限られているので、クワガタムシのように広い地域で見られるのではなくて、限られた地域でしか見ることはできません。

## ●カブトムシの飼い方

### 親虫を捕ろう!

前述の条件を満たした場所を見つけたら、夜出かけていって、街灯の下を探してみよう。本格的に掛るのならば、昼間に樹液の出ている木を見つけておいて、夜または早朝にその木を見に行ってみよう。カブトムシは夜行性で、昼間はあまり活動しません。

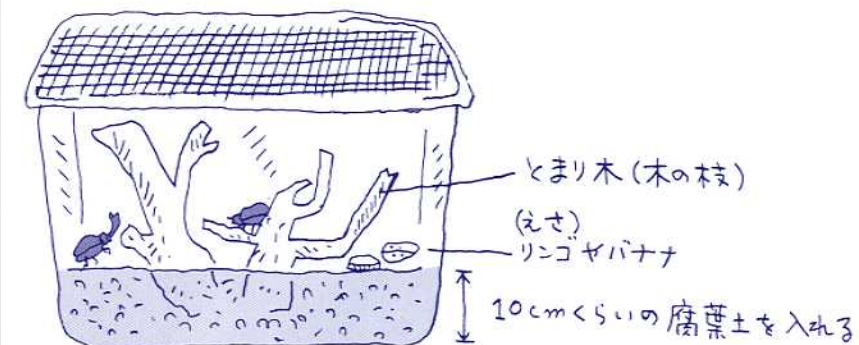
### 親虫の飼い方

大きめの水槽にカブトムシ用マット(市販)または腐葉土を10cm程入れて枯れ枝などを上におきます。土は手をほろえは落ちる程度に湿り気を与えましょう。カブトムシはひっくり返った状態になると死んでしまいます。枝は多めにいれてひっくり返っても起き上がれるようにしてあげよう。

えさはメロン、スイカの皮でもいいのですが、土が汚れやすいのでリンゴ、バナナを与えましょう。

交尾をするとオスはメスよりも早く死んでしまいます。死んだオスは取り除いて、土も汚れがひどい場合はとりかえてそのままメスの飼育を続けます。

メスも弱ってきたら、新聞紙の上などに土を出してみましょう。直径3~4mmの白い球があったらそれがカブトムシの卵です。メスが死ぬ頃にはもう卵がかえっているかも知れません。

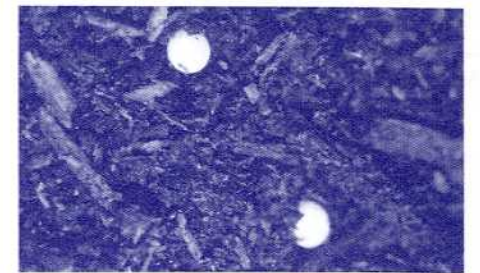
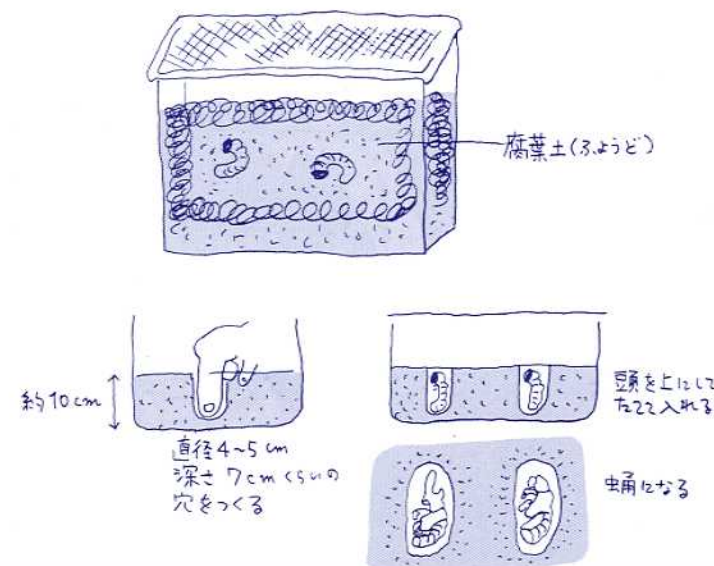


### 幼虫の飼育

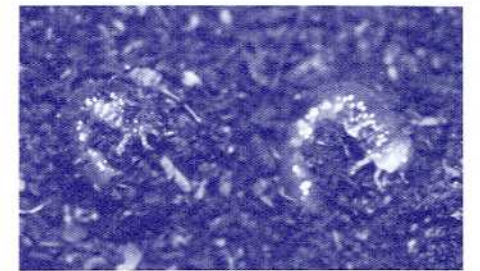
親虫が全部死んでしまったら枝などを取り出して腐葉土を水槽の8分目位までいれます。出来れば通気性のある木箱に移しましょう。水槽は玄関など日の当たらない場所におきましょう。幼虫は秋までに3令幼虫(終令)に成長します。ものすごい勢いで成長します。土の表面が糞でおおわれるようになったら土を入れ換えます。

冬の間もこの作業を繰り返します。そして翌年の7月に入ったら土の入れ替えはやめます。幼虫が蛹になるための部屋をつくるからです。部屋をつくった幼虫を取り出してそのまま土の中に埋めると、もう部屋をつくるが出来ずに奇形の蛹になって死んでしまいます。

蛹は2~3週間で成虫になり、数日したら土の上に出てきます。すでに部屋をつくった幼虫の部屋を壊してしまったり、観察したい場合は、水槽などに土を10cmくらい入れ、手で押し固めて、直径4~5cm、深さ7cm程の穴を開けその中に幼虫を立てて入れます。幼虫のおしりの部分が土に埋まらないように注意し、穴は壊れたら作り替えてやります。こうすると蛹や、成虫になる様子を観察できます。



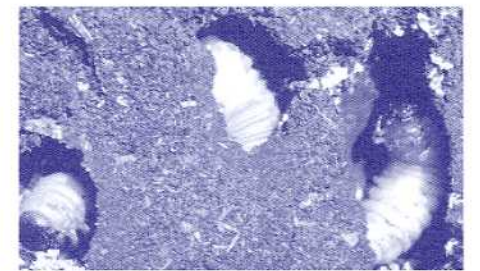
直径3~4mmの卵



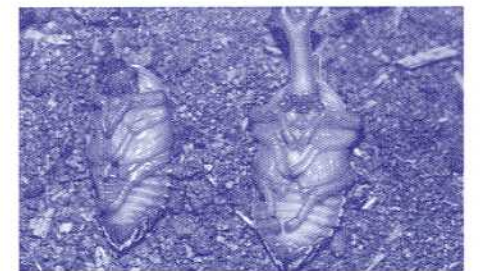
1令幼虫



3令幼虫(終令)



蛹になるための部屋(蛹室)をつくっている3令幼虫。蛹になる前の幼虫は色が黄色くなり、棒状になる。頭を振りのように動かす運動が少なくなる。



蛹



メロンを食べるオス



## 動物園事情 - 法的根拠 -

「動物園」はどうあるべきなのか？

古くて新しい問題だ。動物園の歴史が物語るように、動物園のあり方はその時代、社会環境によって随分と変わってきている。ご存じのとおり、動物園のスタートは王侯貴族の宝物的な発想でつくられたことによる。それが一般に公開され、新たな道を進むことになるのだが、やはり奇怪な姿をした動物や美しい鳥たち—いわゆる珍獣奇獣—を檻にいて見物させるというところから脱却するには少し時間がかかる。見せ方の工夫は時代とともに改善されてくるのだが、動物を飼育する目的として、動物の繁殖を図り、種を保存するという考えが表面に出てきたのはそう古い話ではない。そこで問題が生じる。「動物園とは社会的にこのような役割を果たすものだ」ということを規定した法律がないのだ。公立の場合各自治体でそれぞれ動物園設置条例を設けているのだが、一応その時代に適応する形で条例が作られている。しかし、その後の動物園の変化は条例を変えてなされている場合は極めて少ない。

博物館には博物館法、図書館には図書館法がある。全国に150以上もある動物園水族館に動物園・水族館法があってもよさそうなものだ。そうすれば同じ土俵で動物園のあり方を論ずることができると思うのだが。

## Vet. News — 動物病院から —

春から夏にかけては、動物たちの繁殖のシーズンです。動物園で飼育している動物たちもそうですが、「園外」でもキツネ、ミンク、クロテン等の肉食動物たちが子育てをしています。毎年彼らが園内に侵入して、飼育している動物を襲い食べてしまう被害が出ます。去年まで被害がひどかったのは、ガンやカモの仲間を展示している水鳥池でした。ここの鳥たちは飛べないようにしてあるので、逃げ脚が遅く、一度捕まえることを覚えた犯人は毎日のように狙いにきます。陸からはキツネ、水中からはミンクと、水鳥たちには逃げ場がありません。特にミンクは狩りが成功するとその種類の鳥ばかりを襲います。ひどいときには一度に数羽を殺してしまいました。私達も黙って見ているわけではありませんが、水鳥池の鳥たちは、恐怖からほとんど繁殖しなくなりました。そこでキツネやミンクが侵入できないように柵で囲ってある施設で繁殖を図っているのですが、ここにも敵がいます。クマネズミです。卵からかえったヒナを襲うのです。動物園のクマネズミは年々肉食傾向が強くなっているようで、小型のフクロウさえ襲われる被害が出ています。

今年はなぜか水鳥池の被害がほとんどありません。安心していたら、エゾシカの子が産まれた次の日の朝殺されていました。一見外傷が見あたらないので、産まれてすぐに死んだのか、と思いましたが、ところがよく見ると、舌が喰いちぎられ、肛門を喰いちぎってそこからおなかの中に「敵」がぐりこんで内臓を食われていました。多分クロテンが犯人です。こんな死体を見たのは飼育係誰もが初めてでした。次は抱卵中のシロフクロウが狙われました。2羽のヒナがかえり残りの5卵を抱卵中でした。2度にわたりクロテンに襲われて、すべてのヒナと卵が駄目になってしまいました。去年も心無い人にいたずらされて子育てに失敗していたので飼育担当者のショックは大きいものでした。

自然の山に囲まれた動物園、確かに環境はいいのですが、これはこれでいろいろな問題があるのです。



## 飼育研究レポート — 旭山ZOOの記録 —

飼育係しんちゃん — 新人です。よろしく。

今年の4月1日から旭山動物園の飼育係になりました中田真一です。早いものでアッという間に3ヶ月が経ってしまいました。入ったときには、園内にはまだ雪が残っており、すぐに開園の準備作業が始まりました。何かなんだか分からず、見るもの聞くもの初めてのことでばかりで、毎日が驚きの連続でした。

キリンの首がどうして長いのか？ ライオンのオスはタゲガミのある方だったっけ？ ダチョウは足が速くて、でっかい卵を産むはずだ。でもどっちがオスだろう？ ヤマアラシのトゲに刺されたら痛いだろうなあ？ カピバラって何？

それはもう、ほとんど動物園にはじめてやってきたお客さんの気分……いや、お客さんの方がまだ詳しく知っているくらいのものでした。

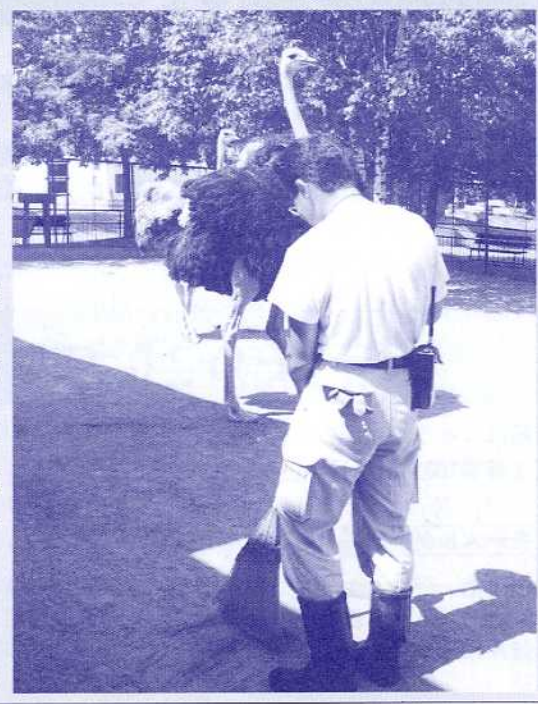
1ヶ月が経ち、4月29日の開園を迎えました。見習い期間は終了し、今日からいよいよ自分の担当動物が決まりました。ダチョウ、エミュー、キジ舎、カピバラです。さて、朝さっそくダチョウの所に行ってみると、なにやら白い物体が地面に転がっていました。なにしろ初めて見るもので、すぐにはそれが卵だと分かりませんでした。思わぬダチョウさんからのお祝いをもらってしまいました。

大変なのは餌作りです。白菜やパンを細かく刻むのですが、包丁といえはリンゴの皮剥きくらいしかやったことのない私には、なかなかうまくいかず時間ばかりかかってしまいます。ちなみに3日目では指を切ってしまいました。5月6月と仕事に追われる毎日が続き、この頃

やっと少し慣れてきました。肝心の動物のことは入園の頃と大差なく、お客さんの質問に戸惑ってしまったりは困るので、これから少しずつ勉強していきたいと思っています。動物園で見かけましたら、気軽に声をかけて下さい。難しい質問は困りますが……。

みなさん、よろしくお願ひします。

(中田)

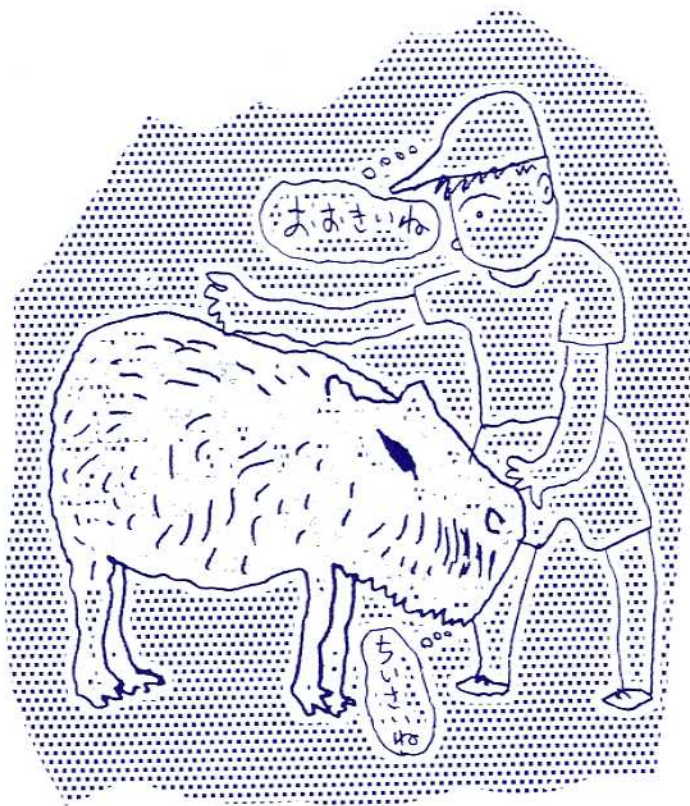






小さな疑問から大きな疑問まで、『げんちゃん』の追ボコナーへ、どんどんお送り下さい。採用させていただいた方には、旭山動物園特製“エゾシカの角のキーホルダー”をプレゼントいたします。

**Q** カピバラはネズミなのになぜ大きいのか?  
旭川市 高橋 藍さん (11才)



**A** カピバラは大きくなると体重60キロ以上にもなる、世界最大のネズミの仲間です。すんでいるところは南アメリカ大陸です。ここには他にも体重が10キロ以上になるヌートリアやパカラナといった大型のネズミの仲間がたくさんすんでいます。なぜ南アメリカ大陸にだけ大型のネズミの仲間がたくさんいるのでしょうか?

南アメリカ大陸は今から200～500万年前に北アメリカ大陸と陸続きになりましたが、それ以前の6000万年の間北アメリカとは海で隔てられていました。この間古いタイプのネズミの仲間や、原始的な草食動物、有袋類等が、比較的のんびりと生活していました。原始的な草食動物が減った後、その草食動物の地位を受け継いだのがネズミの仲間だったのです。北アメリカやアフリカでは草食専門のウシやシカの仲間が進化しましたが、南アメリカは海で隔離されていたためにこれらの草食のスペシャリストが入ってこなかったのです。アフリカで、キリンやインパラなどたくさんの種類の草食動物がしめる地位を、南アメリカではカピバラなどの大型化したネズミの仲間がしめたのです。絶滅してしまいましたが体重500キロにもなるカピバラの仲間もいたくらいです。

陸続きになってから、ジャガーなどの肉食動物、ラクダの仲間、シカの仲間などの草食動物が入ってきましたが、その種類は少なく、カピバラなどの大型のネズミの仲間が現在でも繁栄しているのです。

## クイズ

テナガザルとお姉さんの手、  
どちらが長いでしょう?



正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製“エゾシカのキーホルダー”が当たります。

**応募方法** ハガキに答えと住所、氏名、年齢、電話番号を書いて旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。

**応募〆切** 1993年8月31日

## 前号のこたえ

正解はゴリラ(♂)の1日分の餌でした。  
《正解率100%》全員が正解でした。

**キーホルダー当選者**

甲府市 津田 恵子さん  
旭川市 村田 悦子さん  
旭川市 岡部 友秀くん



## 飼育日誌 《平成5.3.23～平成5.6.30》

- 3.28 ゴマフアザラシ出産死亡
- 3.30 ZOOガイド「上川町教育委員会」
- 4. 4 ウォンバット入院
- 4. 5 開園準備作業開始
- 4. 7 ヒョウ、ユキヒョウ、ヤマネコ予防接種
- 4. 9 ウォンバット死亡
- 4.11 ライオン、トラ予防接種
- 4.17 オセロット寝室工事のため移動
- 4.18 アムールトラ(♀)爪切り
- 4.20 クモザル(♂)秋田市大森山動物園へ異動
- 4.21 クモザル(♂)伊豆シャボテン公園より借受
- 4.22 レッサーパンダ♀札幌市西山動物園より借受
- フタコブラクダ♀札幌市円山動物園より借受
- ベネットワラビー♂♀、オナガキジ8羽札幌市円山動物園より受贈
- 4.25 新しくなった爬虫類舎に新着動物  
ホシガメ、アメリカコガメ、オマキトカゲ、グリーンイグアナ、ボールニシキヘビ
- 4.26 クモザル同居
- 4.29 平成5年度開園  
特別展「クイズでまわる動物園」開催  
ワンポイントガイド始まる  
第1回目「キリンについて」牧田
- 5. 9 ZOOガイド「旭川市立聖園中学」
- 5.12 シロフクロウ産卵開始
- 5.14 ZOOガイド「百華幼稚園」
- 5.15 ZOOガイド「旭川北高」  
ZOOガイド「小鳩保育園」
- 5.19 ZOOガイド「旭川市立神居中学」
- 5.20 ZOOガイド「浜頓別町」
- 5.21 ZOOガイド「理美容学校」
- 5.22 カバ(♂)右前肢跛行 ～5.28  
ZOOガイド「グルンパ」
- 5.24 ZOOガイド「旭川市立旭川第一中学」
- 5.28 キタキツネ キジ舎へ侵入 2羽殺害
- 6. 3 ニホンザル出産
- 6. 4 ZOOガイド「剣淵西原学園」
- 6. 6 エゾシカ出産
- 6. 9 エゾシカ2頭出産
- 6.11 ZOOガイド「みどり幼稚園」
- 6.13 第14回動物園ウォークラリー
- 6.17 ZOOガイド「旭川盲学校」
- 6.22 日本動物園水族館協会北海道ブロック  
飼育技術者研究会 於：帯広～23  
「自主企画・制作による特別展」阿部  
「新施設紹介ー爬虫類舎」小菅
- 6.22 オオカミ外耳炎治療  
ZOOガイド「剣淵保育園」
- 6.23 ZOOガイド「新婦人」
- 6.25 シロフクロウ札幌市円山動物園へ異動

## 飼育動物数 (7月1日現在)

哺乳類 41種 147点  
鳥類 90種 438点  
爬虫類 9種 39点  
合計 140種 624点



## お知らせ

### ◎児童動物画コンクール作品募集

幼児・小学生対象に動物の絵を募集します。  
生き生きとした動物の姿を描いて、動物園に届けて下さい。  
応募〆切は8月24日です。

### ◎ぬり絵作品募集

旭山動物園のパンフレットに折り込まれている  
“ぬりえ”を仕上げて、動物園まで届けて下さい。  
ぬり絵は8月1日から園内にて展示致します。

### ◎夜の動物園

8月13日から16日まで、恒例の夜間開園を致します。  
この期間は通常の閉園時間が21時になります。  
夜の動物たちの姿を観察できる絶好の機会です。  
14日にはカブトムシの日を予定しております。

### ◎パネル展

動物資料展示館にて、写真やイラストを使った動物に関する解説などの特別展を行ないます。現在は  
「動物大発見ークイズでまわる動物園」です。  
一度挑戦してみてください。

### ◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として120円切手を4枚同封して、旭川市旭山動物園モユク・カムイ係までお申し込み下さい。

## 編集後記

北海道には梅雨がない……はずなのに、なんともうとうしい天気が続きました。加えて、気温もあがらず、農作物の出来も心配されてきました。

新しく仲間入りしたレッサーパンダはすっかり旭川になれて、毎日快適に過ごしているようです。手をつけなかったクマザサも新しいササノコを与えたところ、すぐに食べ始め、やはり大好物になったようです。心配していた爬虫類舎の動物たちは、グリーンイグアナ、オマキトカゲ、ボールニシキヘビなど順調に大きくなっており、イグアナなどは何日か会わないと、びっくりするほど大きくなっています。

夏にはいろいろ行事をかかえて、ちょっと大変ですが、やはり夏は夏らしく汗が吹き出すくらい暑くなってはいいものです。夏ばて解消には動物園でのんびりするのもいいですよ。暑いときに熱っついラーメンを食べると同じです。





コノハズク（幼鳥：推定28日令）

## モユク・カムイ No. 33 平成5年7月31日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104  
 発行者 菅野 浩 編集委員 小菅 正夫・阿部 寛・坂東 元  
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653